



## THANK YOU カード

少しだけ厚みをつけた、封筒にもなるTHANKS YOUカードです。  
ちょっとした贈りものや、すそわけなどを、気持ちをこめて贈れます。  
印刷された文字をカットすると、中身が少し見えるしかけです。  
文字をぬくのが大変なときは、窓をくりぬいても使えます。

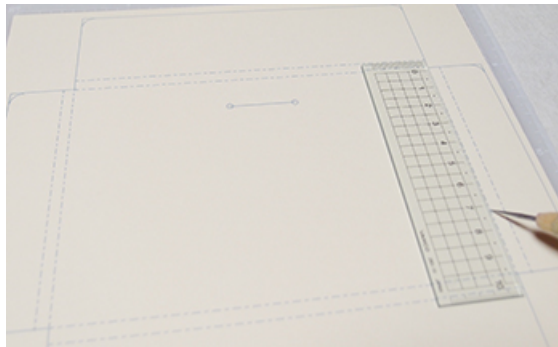
**使用用紙** A4 ミタント 各1枚 <大> 407: クリーム/ <小> 374: ヘンブ  
**できあがりサイズ** <大> 約 15×10cm/ <小> 約 10×7.2cm

**ポイント** ミ・タントのウラ面(紙表面のシボ(凹凸面)が無い方に印刷すると仕上がりきれいでおすすめです。

### 必要な道具など

はさみ(またはカッター・カッターマット)  
定規、目打ちなど先のとがったもの  
筋入れ用: 先端の丸い鉄筆(でなくなったボールペンなど)

※小のタイプは、  
文字部にテープをはって  
色をつけた参考例です



- ① 型紙の周囲の線に沿ってカットし、  
谷折り線に定規と鉄筆で、折筋を  
つけてきます

型紙の線

————— カットする線  
- - - - - 谷折り



- ② 折筋に沿って、折り線を折り曲げた  
ところ  
(印刷面から見て、全部が谷折りに  
なります。)



- ③ メッセージ部をカットしていきます。

細かいところからカットを始めるとうい  
でしょう。

入り組んだデザインの部分は、目打ちなど  
で最初に印をつけておくと、はさみやカッ  
ターの刃のストッパーになります。

図の ● 印



■ の塗りつぶし部を、くりぬくように  
カットします。

印刷線が残らないよう、線をふくめてカット  
するとよいでしょう。

花の模様など、あまり細かいところは、お好み  
でカットを省力しても大丈夫です。  
その場合、花の模様を含め、コーナー部分を  
切り抜くとよいでしょう。



- ④ 周囲の枠に文字のないところと文字の直線部は、定規をあててカットするとよいでしょう。

このとき、ちいさめの定規があれば、便利でおすすめです。



- ⑤ 曲線部分は、一度にカットせず、カーブにそって少しずつ切るとよいでしょう。

カットする手をあまり動かさず、紙を少しずつ動かしていくのがポイントです。



- ⑥ ウラ面(カードの表面)をときどき見ながら、カットできているか確認します。

くりぬく部分がぬげないときは、カードの表面を見ながら、角の部分に刃を入れたまま、そっと紙をひっぱるとよいでしょう。

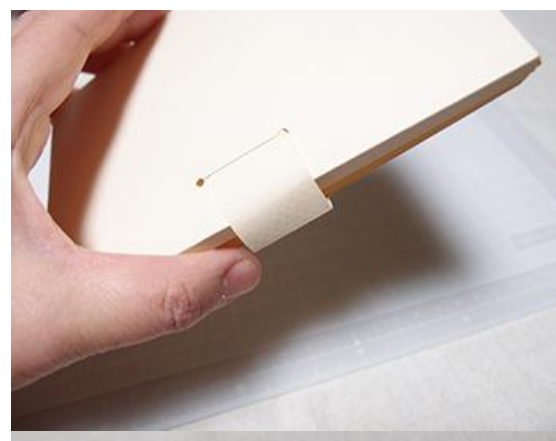
それでもまだ紙が残るときは無理をせず、角の部分に残った紙部分に刃先を入れ、そっと紙をとるとよいでしょう。



- ⑦ カットが終わったところ  
印刷面→ カード内側

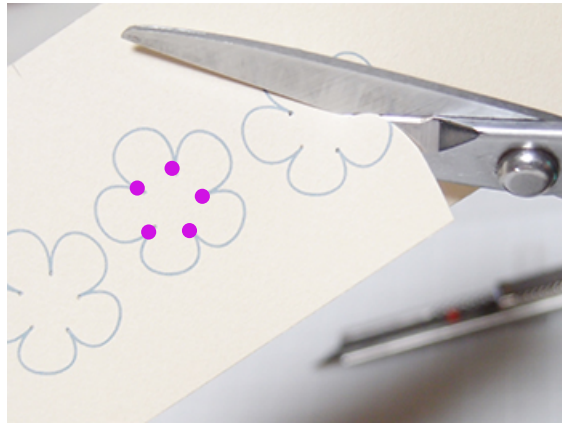


カード外側 おもて面



- ⑧ カードをとめる部分に切り込みを入れ、出っ張り部分を差し込んで完成です。

切り込み部 左右に目打ちなどを穴をあけておくと、切れ込みのストッパーになります。



## ☆ちいさなモチーフ

花のモチーフなど、曲線が多いちいさなモチーフは、●部など、入り組んだ部分も目打ちなどで印をつけたあと、はさみ、カッターどちらでも、やりやすい道具でカットするとよいでしょう。

カットしたモチーフはカードにはったり、プレゼントの添えたり、ビニール袋に入れて、カードの窓からのぞかせるよう飾ってもいいでしょう。



## ☆ クッキングシート

<A>カードを折る場合、へらを使って仕上げると、きれいな折り線になりますが、へらを使ったあとが残ることがあります。

それを防ぐため、クッキングシートをカードにのせてへらで折ると、後が残りにくくなります。

<B>ウラ面からカッターで文字をカットすると、カットした表面部が少しでっばることがあります。

もしこれが気になるときは、表面にクッキングシートをあてて、へらなどでこすると、カットして盛り上がった部分を平滑にすることができます。



※小のタイプは、文字部にテープをはって色をつけた参考例です

## ☆色テープなどを使って

「THANK YOU」の窓は、中身を少しだけ見せるサプライズカードですが、窓を使っているいろいろな演出をお楽しみいただけます。

<例1> はがきサイズのみ・タントにメッセージを書いて内側に入れると雰囲気が変わり、いろいろな場面で使えるカードになります。

<例2> ちいさな透明の袋に左記の花モチーフやビーズ、スパンコールなどを入れ、窓の裏面からテープではると、華やかなカードになります。

<例3> 最初に文字部表にゴールドのテープをはり、次にカードウラ面からカットすると、写真の小さいカードのような、また違った雰囲気のカードを作ることができます。

また写真付きであらためて活用法をご紹介しますので、ぜひみなさまのアイデアでお楽しみ頂ければ嬉しく思います。